

すこやか 5 月号

第 197 号
月号

SANDA CITY HOSPITAL PRESS SUKOYAKA



特集 FEATURE 脳梗塞について



脳神経外科 医長
垣田 寛人

- 日本脳神経外科学会 専門医
- 日本脳神経血管内治療学会専門医

脳梗塞とは？

脳梗塞は、脳の血管が詰まったり、狭くなったりして脳組織への血流が低下し、その状態がある程度続くことで、脳組織が壊死してしまう疾患です。脳梗塞や脳内出血などの脳血管疾患は、日本人の死因では第4位(9%、平成26年度) (図1)、また介護が必要となる原因では第1位(18.5%、平成25年度) (図2)で軽視できない疾患です。

原因と症状

脳梗塞の主な原因は動脈硬化です。これは年齢とともに生じてきますが、高血圧、脂質異常症、糖尿病、喫煙といった危険因子があるとさらに進行し、その結果、血管狭窄(狭くなること)や閉塞(塞がること)が生じます。これらの症状は、気付かない間に徐々に進行して脳梗塞に至るため、普段から内科的治療を行って管理する必要があります。もう一つの原因は“心房細動”という不整脈で、心臓内に血栓(血の塊)が生じ、それが流れていくことで血管を閉塞してしまいます。

脳は部位により働きが違うため、脳梗塞が生じた部位により様々な症状が生じます。片方の手や足が動かしにくくなる“片麻痺”やしびれが生じる“感覚

障害”、言葉がうまくしゃべられなくなる“構音障害”“失語”、めまい・ふらつきなどによる“歩行障害”などがあります。行動がおかしくなるなどの症状が出ることもあり、「何かいつもと違う」と自覚したり、指摘されたらすぐに受診するようにしましょう。

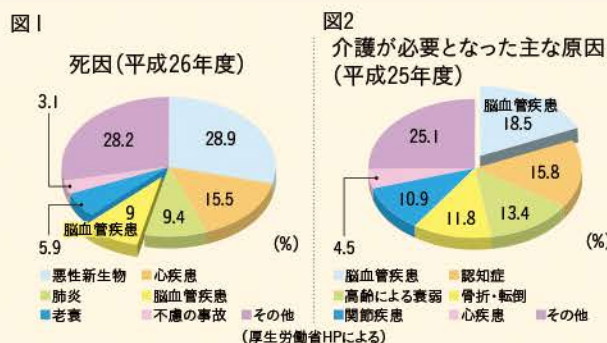
治療は？

症状が出現してある程度時間が経過している場合、壊死した脳組織は現在の医学では再生できないため、リハビリで症状の軽減を目指します。しかし、発症後4.5時間以内なら症状軽減の可能性がある注射薬があり、また8時間以内ならカテーテルを用いて閉塞血管を再開通できる血管内治療があります(それぞれの症例により適応となるかどうかは医師の判断によります)。

まとめ

脳梗塞は一度なってしまうと症状が残存し、その後の日常生活動作(ADL)が低下し、生活の質(QOL)の低下を招くため、普段から内科的疾患の治療をしっかりと行い、十分な水分摂取を行って予防することが重要です。

脳梗塞を疑うような症状が出現したときは、軽い症状で抑えるためにも、様子を見ずに、救急車を呼んですぐに受診するようにしましょう。



三田市民病院改革プランを策定しました

市民病院では、平成 29 年 3 月、「三田市民病院改革プラン」を策定しました。この過程では、「三田市民病院事業計画策定及び進行管理委員会」で検討した案に対する市民の皆さんからのご意見を募集しました。主なご意見とそれらに対する市民病院の考えは下記のとおりです。

「改革プラン」(案)に対する主なご意見

分類	主なご意見	市民病院の考え
医療を取り巻く状況	「看護師不足、医師不足のために経営形態の見直し」が必要だといわれますが、今国で働き方改革が議論されておりますが、看護師は厳しい労働条件の中で働いております。勤務条件の整備がまず必要だと思います。自治体の責任で計画的に確保をお願いします。	快適な職場環境の整備を図り、医師・看護師確保に努めます。また、医師確保については、関連大学との連携強化により医師派遣と研修医の確保に努めていきます。
医療圏別の病床配置状況	阪神北医療圏は入院ベッド過剰。特に急性期が過剰で、回復期が不足の状況を統合再編でベッド数を減らす計画には反対。急性期を減らし回復期のベッドに転換することは、入院患者サービスの低下と看護師削減で労働強化にもつながる。生活に直結する雇用関係の悪化を行政が行うのは時代に逆行。	急性期病床(300床)を削減することは考えておりません。また、一般急性期からの病床区分の変更についても考えておりません。
市民意識調査より	市のスローガンでは「子育てするならゼツタイ三田」を挙げておられ、これを信じて三田に転入してこられた人もあり、小児・周産期医療(出産など)はぜひ確立していただきたい。	地域住民のニーズとして、小児・周産期医療の継続と診療機能の強化については、市民病院として必要であると考えております。今後も小児・周産期医療は、継続維持に努めます。
改革プランの策定	独立行政法人になると赤字部門は切り捨てられる可能性が大きいので反対です。指定管理や民間譲渡などは市民病院の改革案として俎上にあげた意識を疑います。	経営形態については、現状の地方公営企業法の全部適用を含めた新公立病院改革ガイドラインが示す4つの選択肢から医療情勢を鑑みて、最適な経営形態を選択する必要があります。
その他	救急医療は、市民病院として最大重要であり、他病院にまかせることは出来ません。	救急機能の更なる充実を図り、地域医療の基幹的な役割を担っていきます。

このプランは、平成 27 年 3 月に総務省が示した「新公立病院改革ガイドライン」に沿って、都道府県が策定する「地域医療構想」と整合した計画を平成 29 年 3 月までに策定することが求められたものです。

プランにおいては、平成 30 年度内に、再編・ネットワークや経営形態について結論を取りまとめること、平成 31 年度に経常収支の黒字化を達成すべく経営改善に取り組むことなど、今後も当院が、地域の皆さんに安心をもたらす基幹病院であるための方向性を示しています。

「改革プラン」は、三田市ホームページ、市民病院ホームページに掲載しているほか、市民役所(市民情報ひろば)、市民病院、各市民センターなどで閲覧できます。

問い合わせ = 三田市民病院事務局 経営企画課 (565-8846 FAX 565-0686)



編集後記

毎年5月31日は、世界禁煙デーとなっております。世界保健機関(WHO)が制定した国際デーの一つです。たばこをやめるだけで様々な病気になるリスクが減り、たばこにお金をかける必要もありません。“世界禁煙デー”という日がある意味を、考えてみたいものですね!

すこやか(第197号)
平成29年5月発行

【編集・発行】
三田市民病院
学術広報推進委員会



三田市民病院

〒669-1321 三田市けやき台3丁目1番地1
TEL.079-565-8000 (代表)
<http://www.hospital.sanda.hyogo.jp/>